

平成三十年度入学試験問題 (推薦入試Ⅱ)

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(市村弘正『小さなものの諸形態―精神史覚え書』平凡社ライブラリー、二〇〇四年、二〇二―二二四ページ、抜粋)

問一、傍線部の「手垢にまみれることが忌み嫌われる新しい言葉の帝国」という文章の意味を、著者の論旨に沿って、六〇〇字以内で説明しなさい。

問二、本文全体を読んで、あなたが考えたことを、六〇〇字以内で論述しなさい。

平成三十年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、文化や世代あるいは所属する社会を異にする人間の間のコミュニケーションの困難を論じつつ、「新しい言葉」と「古びていく言葉」の「境目」における言葉そのものの成り立ちを考察する文章である。本出題の意図は、言葉が含み持つ歴史的社会的文脈の重要性を説く文章を正確に読み取り、論旨を的確に汲み取ったうえで、本学科の研究分野である歴史研究・文学研究・言語研究・民俗研究の分野において、どのようにして言葉に関するより良い認識とコミュニケーションのあり方を探求するべきかについて論述させることにより、言葉を軸とした文化のあり方を論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。